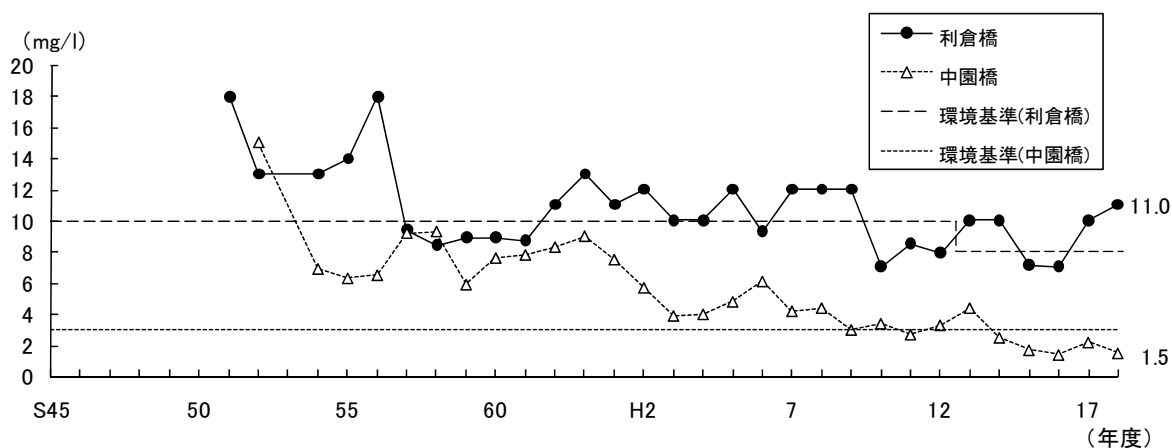


(2) 猪名川下流

利倉橋でのBOD（75%値）は昭和50年後半までは高い値を示していたが、その後増減を繰り返しながら、徐々に減少傾向にある。平成18年度は11.0と昨年度より高い値をしめし、環境基準も超過した。中園橋では、平成元年頃から改善傾向が見られ、平成18年度は1.5mg/lと環境基準値を満たしている。

アンモニア性窒素は、利倉橋では昭和59年度に31mg/lと極めて高い値を示したが、その後急速に改善され、平成18年度は5.1mg/lとなった。中園橋では平成2年度以降ほぼ横ばいで推移しており、平成17年度は0.21mg/lとなった。

神崎川の水質は、流域に点在する製紙、染色工場等の工場排水や、北摂地区の開発に伴う汚濁源の増加により、昭和40年代前半までは悪化する一方であった。その後、下水道整備等の水質汚濁防止対策の推進により著しく改善されているものの、依然として汚濁の進んだ河川である。



【図3-47 猪名川下流のBOD（75%値）の推移】

兵庫県「公共用水域の水質等測定結果報告書」より作成
詳細は資料3-10を参照

